

「一日も長く野球を」

還暦野球チーム「球友会」



グラウンドにこだまする快音。「ナイスバッティング」の大声。はつらつとしたプレーは、年齢を感じさせない。全員が50歳以上の還暦野球チーム「四日市球友会」の練習風景だ。「とにかく野球が大好き」という選手たちの熱い思いがあふれている。

北勢でリーグ設立

学生野球や社会人野球の経験者を中心に、プロ球団のテストを受けたことがある人まで、四日市市内の野球好き約20人で2008年に「四日市球友会」を結成。2年間は南勢地域のリーグに参加したが、選手らの「地元でやりたい」という気持ちが強く、北勢と伊賀地域のチームを誘い、今年から7チームの「北勢マスターズ野球リーグ」を発足させた。

現在のメンバーは、市内だけでなく桑名市や川越町などに住む51歳から73歳までの25人。商店主、歯科医師、会社役員など職

業人もいれば、既に現役を離れた人もいる。毎週日曜日に市内のグラウンドで、約3時間練習をし、月に2回か3回の試合に備えている。

最高齢73歳

チーム最高齢者は野球歴40年以上の四日市市高花平の豊桑宏行さん(73)。月のうち半分ぐらいはシルバー人材センターの仕事で緑地公園の管理作業に精を出す。チームでは主に内野の要の遊撃を守る。「何事も継続が大事なので、一日でも長く野球をしたい」と、体調管理には気を使っている。

右下手投げの投手でもある、同市東新町の塚田勝彦監督(68)は「試合の出場選手は実力重視で決めるが、なるべく多くの人を出したい」といい、胸の内は複雑そう。近い将来に四日市市で東海3県の還暦野球大会を開く目標も持っており、関係方面へ打診している。



四日市のクラブから 道脇彩葉さん・健心君

長太栄町の小学4年生道脇彩葉さん(9)と弟の2年生健心君(7)。彩葉さんは一昨年に続き2回目、健心君は初出場で、共にベスト16を目指す。

彩葉さんは8年の全国大会でベスト32まで進んだが「得意なスマッシュを連続で決め、それより上へ行く」と

気合十分

5歳で卓球を始めた彩葉さんは週に3回、始めて1年余りになる健心君は週に2回、クラブへ通い、基礎を中心とした練習を重ねている。監督の松澤孝久さん(62)は「彩葉さんはピッチが早く攻撃的。健心君はやまと卓球に夢中になり始めたところ」という。

荒れた竹林を整備

きれいな散策コースに

手入れの行き届かない森林や公園の整備などをしていくグリーン

この竹林は、竹が密集して太陽光線が地面まで届かず、一帯には倒れた竹や風呂釜などの大型ごみが散乱するなど、荒れ果てていた。これをきれいにして、と、一昨秋から毎月1回、7、8人のボランティアが集まり、整備にかかった。まず、作業の拠点になる小屋を建て、倒れた竹を取り除き、密集した竹の間伐をし、チップにして地面にまくなど、少しずつ作業を進めた。

リフト付きバスに 愛称つけて

伊賀市で総合運輸業を営む「株式会社キタモリ」が、7月6日(火)からレンタルを始めるリフト付きバス2台を、

親しみやすく覚えやすい5字以内の名称を広く一般から募り、北川裕之県議、榎森吉三・伊賀市障がい者福祉連盟会長、田中恒紀・名張市身体障がい者互助会代表の3人が選考して決める。

応募は、はがきに愛称と住所、氏名、年齢、連絡先を記し、6月28日(月)までに「518-0113 伊賀市古郡546の1 株式会社キタモリ バス名称係」へ。結果は30日(水)に同社で発表される。採用作品には5千円分の商品券と名称入りのバス模型が贈られる。

このバスは、このほ

た。こうして、昼間でも薄暗く、不潔だった道がすっかり美しくなり、竹やぶの中で遊んだ。こうして、昼間でも薄暗く、不潔だった道がすっかり美しくなり、竹やぶの中で遊んだ。



▲整備した竹林でくつろぐ「森

「森林づくり三重」は約200人のグループ。整備を望む竹林の所有者を募っている。問い合わせは事務局059・346・2506へ。



社会福祉法人 青山里会

学校の雰囲気を経験しよう!

オープンバス

一途に作り上げたこの味を全国発送!

大矢和金魚印